



退職者挨拶

消化器外科二・診療科長 中尾 昭公

昭和42年に名古屋大学医学部入学，昭和48年に卒業し，二つの病院での臨床修練を経て昭和55年に第二外科に帰局しました。そして31年が経過し，本年度で退職させていただくこととしました。帰局から31年間，名大病院では大変お世話になりました。

帰局当時は古くて暗い2B病棟と6C病棟を第二外科は使用していましたが，現在の新しい病棟は見違えるほど明るい病棟となりました。2B，6C病棟双方の病棟医長を務め，新しく完成した6W，13W病棟とも病棟医長として務めさせていただきました。当初より膵癌の外科治療に積極的に取り組み，手術室，病棟，中検病理部では大変お世話になりました。また膵癌に対するライナックを用いた術中照射にも取り組んだため，旧中央診療棟の4階手術室より開腹のまま別棟の地下1階の放射線治療部まで全麻下に患者さんを運ぶという大変な作業を手術部，麻酔科，放射線治療部の多大な協力のもと立ち上げて一例の事故もなく進めてきました。しかし新中央診療棟の完成とともに第6手術室にライナック（モベトロン）を設置していただき当時から考えれば夢のようです。近年，ほとんどの建物は一新され，帰局当時の面影を残す建物は鶴舞キャンパスにはほとんどなくなってしまいました。

大学の法人化も経験し，帰局当時と比較すると臨床や研究も様変わりしました。門脈カテーテルバ

イパス法を開発し，膵癌手術における門脈合併切除は安全な手術となりました。また各種の膵切除術式も考案し広く国内外で採用されるに至っています。膵癌切除は本邦現職教授のなかで最も多くを経験できましたし門脈切除は世界一の症例数となりました。消化器外科1と消化器外科2を合算した肝・胆道・膵癌手術症例数は名大病院が全国第一位となっております。そして平成10年を最後に消化器外科2では膵切除例の直死例を経験していません。我々外科スタッフの努力のみでなく名大病院の多くの人々のご支援とご協力があったことだと感謝いたしております。



すべての建物が一新され，さらにこれからの飛躍が期待される時に名大病院を去るのは少し寂しい気もしますが私が学友会の時報部長時代に学友の有志の方々よりご寄附をいただき平成14年～17年にかけてJR鶴舞駅から名工大へ至るツツジの植え込みのなかに植樹した桜並木23本に名大病院のさらなる発展を託して退職させていただきます。

目次

①退職者挨拶／消化器外科二 中尾科長診療	1	⑦健康講座／老年内科	9
②東日本大震災への当院の支援状況と患者関係者の皆様へのお願い 松尾病院長	2	⑧名大病院内の飲食施設の紹介	10
③東北地方太平洋沖地震被災地支援に行ってきました【放射線測定チーム】	3	⑨立体駐車場等の建設	17
④東北地方太平洋沖地震被災における医療支援チーム	4	⑩行事報告	18
⑤NPO法人卒後臨床研修評価機構の評価を受審	6	⑪ナディック通信	25
⑥看護部臨床卒後研修制度について	7	⑫名大病院の医事統計	27
		⑬編集後記	28

東日本大震災への当院の支援状況と 患者関係者の皆様へのお願い

名古屋大学附属病院長
東日本大震災医療支援対策本部長 松尾 清一

去る3月11日に、東北地方太平洋沖で発生しました大地震と、それに関連した大津波及び原発事故により被災された多くの方々に対し、心よりお見舞い申し上げるとともに、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表します。

名古屋大学医学部附属病院では、被災地の東北大学附属病院を通して、医療材料・衛生材料などの支援物資をいち早く届けるとともに、石巻地区、南三陸地区、福島地区などへの医療支援を行ってまいりました。

当院は、大震災以来、入院・外来ともに混乱なく通常の診療を行っておりますが、国、県、被災地などからの要請がある場合には、迅速な患者受け入れを行うこととしております。今後場合によっては、通院あるいは入院中の患者様には、検査・手術などの遅延が生じ、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、治療には万全を期して対応することとしておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成23年4月1日

名古屋大学附属病院長
東日本大震災医療支援対策本部長 松尾 清一

これまでの対策本部の取組(4月6日現在)

名大病院では、震災勃発時に東日本大震災支援対策本部(平成23年4月1日の閣議決定を踏まえ、東北地方太平洋沖地震支援対策本部から名称を変更)を設置し、医療支援チームの派遣をはじめとする支援活動を行っています。今後とも、長期的展望に立った継続的なご支援を続けていきたいと考えております。

1 放射線測定チームの派遣

派遣者数／2名(放射線技師1名、事務1名) 派遣先／福島県 派遣期間／3月16日～20日

2 医療支援チームの派遣

(1) 石巻地区

【第一陣】

派遣者数／8名(医師4名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名) 派遣先／石巻赤十字病院 派遣期間／3月18日～23日

【第二陣】

派遣者数／8名(医師4名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名) 派遣先／石巻赤十字病院 派遣期間／3月25日～30日

【第三陣】

派遣者数／7名(医師3名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名) 派遣先／石巻赤十字病院 派遣期間／3月31日～4月5日

(2) 志津川地区

【第一陣】

派遣者数／6名(医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名) 派遣先／志津川地区 派遣期間／4月5日～4月10日

3 物資の輸送

3月16日に、文部科学省から必要物資確保の協力依頼を受け、患者給食、医薬品及び医療材料等合わせて20トンの物資を自衛隊小牧基地から東北大学附属病院へ輸送しました。

4 被災患者受入態勢について

3月17日付で、院内の各診療科に対し、当院における被災患者受入について通知を行い、被爆患者を含む被災患者の受入手順等の周知を行うなど、受入態勢を整えました。

東北地方太平洋沖地震被災地支援に行ってきました 【放射線測定チーム】

放射線部 亀山 裕司

この度、文部科学省要請の協力要員として被曝医療調査のため福島県に行き参りました。現地の被災状況・具体的な作業内容などについて出発間際でも不明な点が多い中、放射線部から私・亀山と事務部の岸氏の2名、3/16午後に慌ただしくミニバンで出発、翌3/17早朝福島県庁に到着しました。首都圏付近での給油事情が極端に悪化している情報もあり経路は日本海側を沿い新潟を経由しました。事実、被災地域に近づくほどガソリン給油待ち行列は長くなっていました。現地入り直前の高速SA(安達太良)にて、事前の環境放射線量を測定したところ $4\mu\text{Sv/h}$ 以上の値を観測、報道から想像していた以上の状況であること、既に放射能汚染した地域にいること、この2点を認識しました。

現地では各種の対策実動班が県庁を中心として設置されており、我々はその中の「緊急被曝医療調整本部」へ名古屋大学チームとして人員登録いたしました。登録後すぐ活動内容のレクチャーを受け、そのまま任地へ向かうこととなり、現地活動を開始いたしました。

現地での任務は原発事故に伴う被曝のおそれのある住民に対する安心・安全の確保、具体的には測定器を用いて医療処置の必要な被曝者の洗い出しおよび住民の被曝相談です。任地により対象となる住民の人数は大きく異なりますが、それぞれの場所にお集まりになった方々

すべてを当日中に調査完了しないことには不安を増すことになりかねず、多様な疑問をお持ちの方一人毎にあまり時間をかけることは難しい場面もありました。

1日の日程は、8時ミーティングで任地指示を受け現地活動、20時までに帰着できるよう撤収し20時本部報告・総括、21時頃解散という流れでした。名古屋大学チームは3/20の活動最終日までに、福島県内の4カ所を拠点とし総移動距離1000km程度、対象とした住民およそ500名の方に「スクリーニング済証」をお渡しすることができました。幸いなことに医療措置が必要な被曝者に遭遇することなく活動終了いたしました。また、我々自身の総被曝線量は実働4日で $100\mu\text{Sv}$ 程度と、全く問題無いことを確認しております。

今回の医療活動は被曝を伴ったことで、理屈的には小さいながらも被曝相応のリスクが計算上存在するかも知れませんが、しかしながら短期間に非常に多くのホッとする表情を間近に接する経験もいたしました。逆に、被災されている住民の方々よりのいたわりも数々頂戴いたしました。困難に対処する共有感を実感し、リスクを遙かに上回る大きな人生の原動力を得た思いです。

最後になりましたが、我々の活動を強力にご支援して頂いた病院長はじめとする病院スタッフの方々、改めてお礼申し上げます。



東北地方太平洋沖地震被災における医療支援チーム

救急部部长 松田 直之

平成23年3月11日(金)は、日本のみならず、世界にとってショッキングな1日となった。地震大国である日本において、建築、土木、環境などの各学術が目覚ましく発展し、徐々に耐震環境が実現されてきた。しかし、今回の東北地方太平洋沖地震マグニチュード9は、これまでの阪神淡路大震災などの震災と異なり、津波災害を基盤とし、多くの被災者を生む結果となった。震災研究者のある者は、宮城県沖大震災の減災のために十分な防波堤作成に取り組むべきだったと語る。平安の時代、西暦869年には、宮城県沖で同様の大規模な津波災害が生じ、貞観地震(じょうがんじしん)として知られていた。このような被災状況において、多くの被災者の救援医療が必要となったことはいうまでもない。

当院は、震災翌日の3月12日(土)に病院執行部を中核として、東北地方太平洋沖地震支援対策本部を立ち上げた。同日午後5時からの会議において、現地派遣の医療支援団について検討し、救急・集中治療、内科、外科あるいは小児科、精神科を専門とする医師団、薬剤師、看護師、事務の8名構成派遣案を定めた。一方、国内では震災翌日より厚生労働省と日本救急医学会がDisaster Medical Assistance Team(DMAT)を被災地に派遣し、日本集中治療医学会は評議員のメーリン

グリストを介して被災地における仮設の集中治療室(ICU)の作成を検案し、震災後3日目に花巻空港に縮小ICUと診療所を仮設した。このような情報に加えて、避難所における小児診療の必要性がクローズアップされ、最も被災者数が多く、医療スタッフの少ない地域として東北大学との連携の中で、宮城県第2の都市である石巻市が派遣関として決定された。このようにして、名大震災対応医療支援チームは、私を団長として3月18日昼12時に名古屋大学を出発し、石巻赤十字病院(石巻日赤)および避難所で4日間の現地診療を行い、医薬品、食料等の十分な支援を行った。

現地に到着して最初に感じたことは、強い異臭と責任性だった。海水と泥水に飲み込まれた石巻市の環境は、嫌気性菌の発する臭いのごとく、独特の異臭を放っていた。石巻日赤は、石巻市内で唯一の震災後診療を続けることのできた病院であり、このトリアージ数は3日目の1,251名を第1ピークとし、私達が黄色ブースで診療した9日目が407名の第2ピークだった。急性期11日目までに、石巻日赤内では4,891名のトリアージを行い、死者(黒)98名(2.0%)、赤365名(7.6%)、黄1,331名(27.2%)、緑3,087名(63.1%)だった。このような中で、集中治療を必要とする赤レベルが365名と多数だったことは被災の重症度の



避難所における診療風景
2011年3月20日 AM10:32

高さを示すものであり、石巻日赤病院はICUベット数が少ないため、このほとんどが急性期広域搬送の対象となった。この中で、派遣された私達8名は、個々の専門性を保ちながらも、状況に合わせた責任ある診療姿勢を貫いた。

一方、中核病院診療の併行戦略として、ローラー作戦が展開された。災害医療におけるローラー作戦とは、各地域を空と陸からの観察により、避難所をしらみつぶしに把握し、評価し尽くす戦略である。被災者の健康状態に加えて、飲料水、食料、水道、室温管理、毛布、トイレなどの生活環境チェックが、DMATや私達医療チームにより施行された。私達は、計5カ所の避難所で、1,000名近い被災者に声をかけ、約330名の診療に当たり、179名の診療録を残した。名大病院医療支援チーム第2陣は3月25日より石巻市蛇田地区を担当し、4月1日から5日までは第3陣が石巻医療支援を高める。このような状況で、被災地診療の様相は、明らかに急性期より慢性期に、そして医師会を中心とした地域の医療が復活し始め、さらに診療内容は予防医学と心のケアの領域に変容しつつある。

さて、名古屋市に拠点を構える私達は、大規模な南海・東海・東南海広域大震災の発生を想定し、被災医療をシュミレーションしておく必要がある。名古屋駅周辺や駅の南側はゼロメートル地帯として知られ、その近辺の病

院の安全性は確実とは言えない。このような中で、やや高台にあり、免震構造病院である当院の役割は極めて大きいものとなるであろう。当院の診療アクティビティ、そして緊急時のアクティビティとなる救急・集中治療部の充実こそ、急性期医療を支持する原動力となるであろう。愛知を含む東南海被災の際には、システムとして全国との医療支援体制を構築しておく必要があり、現在、私は減災連携研究センターの一員として、この活動に取り組みは始めている。

私が、名古屋大学救急集中治療分野に異動して1年が経過した。絶えず、院内が極めて清潔に保たれていることは素晴らしい。そして、各診療科は高い専門性を提供し、さらにコメディカルの皆が極めて高い医療能力を保ち、元気、明朗が保たれている。先輩は後輩に、温かく、厳しく、診療教育をしている光景がある。この病院の活動性と清潔性が、非常事態の原動力となる。院内が一致団結した診療の場となるように、救急部、そしてMedical & Emergency ICUの運営に私も精進させて頂きたい。場所が変われども、心は一つ。名大病院のチーム医療を、院内および院外でも育てていきたいと考えている。今回の石巻市への医療支援は、名大職員の皆さまの心と力の結集である。



夜間の診療ミーティング

2011年3月20日 PM:8:43

松田直之（救急・集中治療部）

坪井直毅（腎臓内科）

沼口 敦（小児科）

田中 聡（精神科）

村岡 勲（薬剤部）

浅井陽次（看護部）

磯村義人（看護部）

杉浦良幸（事務部）

NPO法人卒後臨床研修評価機構の 評価を受審しました

タスクフォースリーダー 平川 仁尚

当院は、基幹型臨床研修病院（基幹型相当大学病院）に指定されておりますが、平成23年1月25日（火）にNPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価を受審しました。

まずは、病院のすべての部門において多くの方々が準備に参加いただいたことに、タスクフォースを代表して深く感謝申し上げます。

現在、臨床研修制度の見直しが行われている中で、第三者評価の受審が義務化される可能性が出てきました。これを受け、当院でも昨年2月に受審の検討を始め、6月に受審決定後、直ちに卒後研修部会を中心としたメンバーで受審準備ワーキンググループを立ち上げました。そして、毎月関係部署と連絡を取り合いながら準備を進めてきました。

10月以降、病院玄関や病棟への掲示により臨床研修の理念・基本方針、プログラム責任者等の周知の徹底をはかり、12月中旬には各部署から回答いただいた書面調査書類をNPO法人卒後臨床研修評価機構へ提出しました。さらに、当日のインタビューを想定した対応の確認や自己評価票の書類チェックをすみずみまで行い、訪問調査当日を迎えました。

当日は、9時からサーベイヤーチーム8名の打ち合わせ後、講堂ホワイエにて書類確認が行われました。10時25分からサーベイヤーチームの自己紹介、病院長による病院概況説明の後、合同面接調査が行われました。午後からは、サーベイヤーが関係部署を訪問し、指導医、看護師長、研修医等へのインタビューを行いました。その後、講堂ホワイエにて研修医のみのインタビューが行われた後、講堂に職員が集まり17時から講評が行われました。

国立大学病院の臨床研修評価の受審例はこれまでにあまりないこともあり、今回初めて受審するにあたり、かなり厳しい評価を予想していました。しかし、8名全員のサーベイヤーからの講評は予想以上に好意的であり、名大方式の臨床研修が優れたプログラムであること、研修医のコミュニケーション能力が高く非常に明るく研修を行っており、またその指導体制も熱心であることを良く理解していただきました。サーベイヤーからの講評の後、オブザーバーで参加されたNPO法人卒後臨床研修評価

機構 岩崎専務理事から、病院長に受審証が手渡されました。

全体講評の後、病院長、植村卒後臨床研修・キャリア形成支援センター長をはじめ、研修医教育に関わる職員とサーベイヤーの懇談の機会が設けられ、サーベイヤーから、名大方式の研修に触れ大変勉強になった旨のコメントをいただきました。

そして、先日2月24日に、NPO法人卒後臨床研修評価機構から調査結果の報告書とともに認定証が届きました。認定期間は2年間、4年間、6年間の3期間があり、臨床研修体制が優れている病院ほど、認定期間が長く設定されます。当院の結果は、「4年間」でした。6年間を取得した病院は全国でもきわめて少ないとされており、愛知県内の病院の中では「4年間」もごく少数と聞いていますので、大変喜ばしい快挙と言えます。改めて、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

今回の講評及び報告書の中で指摘された課題の一つに、大学病院という大きな組織における臨床研修の、仕組みの部分とプロセスの部分の乖離ということがあげられました。評価受審準備にあたっては、様々な部門にご理解とご協力をいただきましたが、今後、さらに臨床研修への理解を深めていただき、病院全体で伝統ある名大方式の臨床研修を発展させていくことが重要と考えております。



看護部卒後臨床研修制度について

看護部卒後臨床研修担当 鈴木 三栄子

急性期病院の医療現場が厳しさを増す中、新卒看護師が看護基礎教育終了時に習得する看護実践能力と現場が求める能力には大きなギャップがあるといわれ、より安全な医療の提供と人材確保の観点から、病院等施設において看護職の卒後臨床研修について努力義務化(平成22年4月)されました。看護部では平成21年4月から、新卒看護師に職業人としての基本姿勢や態度、また看護の基本技術(100項目)を確実に習得できるように、短期ローテーションを取り入れた卒後臨床研修制度を導入しました。

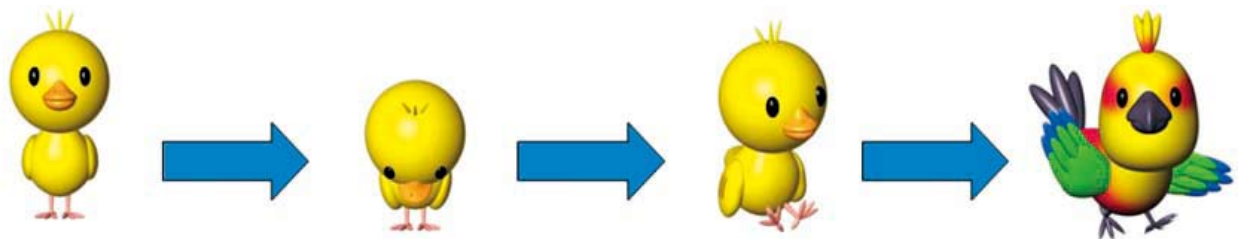
「内科系」「外科系」「その他の領域」の3つの領域を3～4カ月交替でローテーションする中で、学生時代の実習では学ばなかった日常生活援助や食事援助、排泄援助など100項目について習得できるようにするものです。患者さんのニーズに合わせ“看護ケア”を提供しようとした



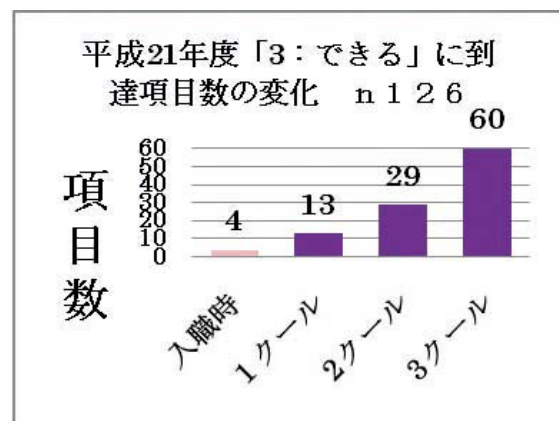
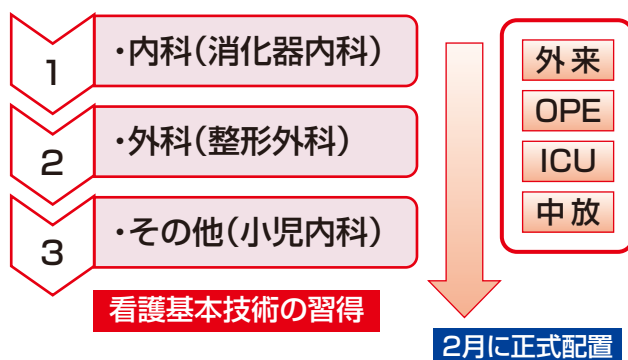
時、「静脈血採血ができない」「吸引ができない」「経管栄養介助ができない」では困ってしまいます。さらに基本的に必要な技術と共に患者さんに向き合う接遇マナー

や姿勢、またいちばん身近な存在として不安や痛みなど患者さんの気持ちにより添える態度など臨床実践能力のベースとして獲得できるようにしています。

この制度の研修期間は10ヶ月間とし、各部署では“サポーターズ”と呼ばれる新人教育担当者を中心に指導や教育を進めています。新人たちは緑色の“若葉マーク”のバッヂを胸に付けローテーションをしています。基本的な臨床実践能力がつくまでの10ヶ月間、先輩や周りの多くの職員の方々の根気強く温かいサポートが大きな力になります。入職時には「脈拍数測定」「腋か温測定」など3項目しかできませんが、3部署を回ることによって、色々な疾患や状態にある患者さんのケアを通し、「輸液ポンプの扱い」や「与薬」「注射」などほとんどの項目ができるようになります。「(ひとを)育てることは(自分が)育つこと」といわれるように、新人看護師を皆で支え、お互いに成長することがこの研修制度の大きなねらいでもあります。名大病院の職員の皆様、この新人看護師卒後臨床研修制度へのご理解とご協力を新人とともどもよろしくお願い申し上げます。



ローテーションの一例



(次ページへつづく)

看護部卒後臨床研修制度について

《初めての夜勤, 先輩に業務の手順を教えてください》



ここなら、
とれそうよ



検体作りって、
簡単そうで、
以外に難しい！

健康講座／高齢者の虚弱について

老年内科 葛谷 雅文

「虚弱」というと、思い浮かぶのは「虚弱体質」「虚弱児」などでしょうか。いずれにしろ弱弱しく、疲れやすく、病気がちな状態が頭に浮かぶと思います。このような状態が高齢者にも存在し、この状態を如何に回避するかが、重要だというお話をしたいと思います。

高齢者の「虚弱」は老化に伴う種々の機能低下（予備能力の低下）を基盤とし、種々の健康障害に対する脆弱性が増加している状態、すなわち健康障害に陥りやすい状態を指します。簡単に言うと機能障害には陥っていないが、その一歩手前、と言うことです。もっと簡単に言うと、言葉は悪いですが「ヨボヨボ」な状態と言えるかもしれません。

要介護認定に至る原因は前期高齢者では脳血管障害や骨折が多いわけですが80歳を超すと「高齢による衰弱」がその原因として頻度が多くなってきます。この状態はまさに「虚弱」に当てはまるものと思われます。「虚弱」の概念は、既存の「身体機能障害」が、ある種の疾病発症（脳血管障害や骨折など）に起因する」という疾病モデルではなくて、高齢者では老化に伴う予備能力の低下（ホメオスタシスの低下）が「身体機能障害」につながるといふ、異なるシナリオを提示しています。さらには「虚弱」の概念は、高齢者の健康障害は若年者、成人とは決定的に異なる生物学的な「老化」を基盤としており、老年医学の特殊性（独自性）を支持するもの

だと思っています。

もっとも世界的によく使用される「虚弱」の定義は、1) 体重減少、2) 疲労感、3) 握力の低下、4) 歩行速度の減退、5) 活動度の低下、の5つ項目のうち3項目以上当てはまれば「虚弱」と診断されます。「虚弱」の存在が将来の転倒、入院、生命予後や身体機能の低下に強く関連することから、「虚弱」に対する介入の重要性が指摘されています。「正常」→「虚弱」→「機能障害」という一方向の動きだけではなく、「機能障害」→「虚弱」→「正常」に戻ることができる可能性があるということです。日本では生活機能の低下が心配される高齢者を特定高齢者として介護予防プログラムに参加するシステムが実施されています。特定高齢者というカテゴリーと「虚弱」はいずれも「機能障害」の前段階として捉えているとの意味で類似しています。介護予防事業自体は「虚弱」予防と類似していると考えていいと思います。いずれにしろ超高齢社会に突入した我が国においては、世界に先駆けて効果的な「虚弱」への介入法の開発、戦略が望まれています。

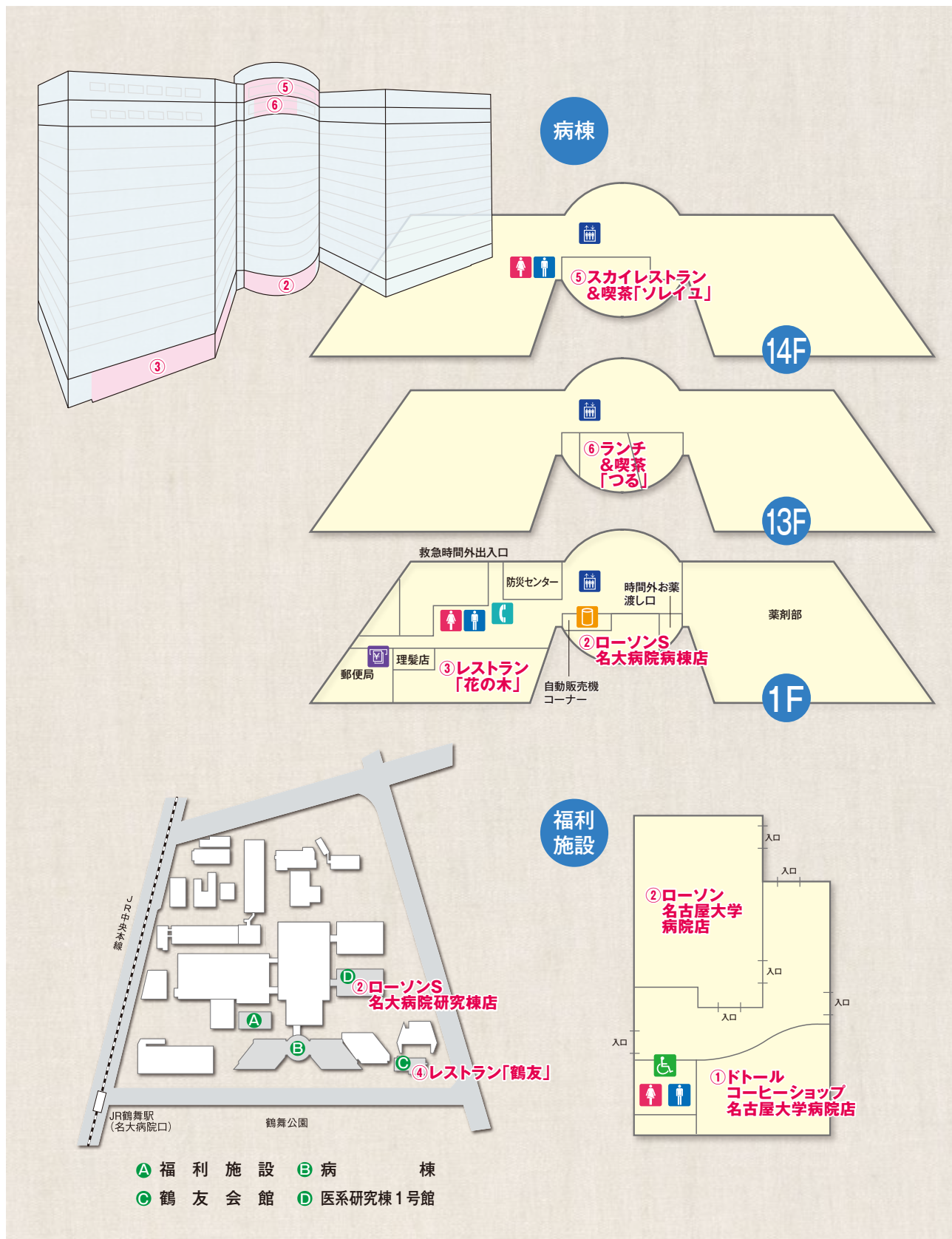


サクラ《バラ科》
名古屋大学博物館友の会・ボタニカルアートサークル
講師 東海林富子

名大病院内の飲食施設の紹介

経理課長 杉浦 良幸

名大病院内には様々な飲食施設があり、どちらも気軽にご利用いただけます。皆様のご来店をお待ちしています。



ドトールコーヒーショップ

①ドトールコーヒーショップ名古屋大学病院店のご案内

- 営業時間 平日・土曜・日祝日
AM7:30~PM8:00
(全日同一営業時間)
- 休業日 なし

【主なメニュー】

ミラノサンド タマゴとスモークベーコン
彩サラダ
¥390



ミラノサンドA
¥390

生ハム・ボンレス
ハム・ポローニヤ
ソーセージ



ミラノサンドB
¥390

海老とポテトのバ
ジルソース



ミラノサンドC
¥390

炭焼チキンとマス
タード



ジャーマンドック
¥200

ドトールコーヒー
ショップのベストセ
ラー商品。



レタスドック
¥240

シャキシャキレタ
スのサラダなドッ
ク。



レッドスパイシードック
¥280

フレッシュトマト・
オニオン、レタスな
どのサラダなドッ
ク。



ツナCHEDダーチーズ
¥320

とろーりCHEDダーチー
ズとツナサラダをたっ
ぷり挟んだ、ボリューム
たっぷりのホットサ
ンドイッチです。



カルツオーネローストチキン
¥320

とりも肉とズッ
キーニ。トマトで作っ
たソースは、ハーブ
の風味がアクセント



カルツオーネペスカトーレ
¥320

ピッツア生地に包んだ
4種の魚介にトマトの
ソースをあわせて、こ
んがり焼き上げました。



トースト
¥180

外はさっくり、中は
ふんわり食感の厚
切りトーストです。



チーズトースト
¥230

外はさっくり、中は
ふんわり食感の厚切
りトーストにマリ
ポーチーズをのせま
した。



クロックムッシュ
¥300

3種のナチュラルチー
ズ、コクのあるホワイト
ソース、ロースハム、サ
クッと食感の食パンの7
層のクロックムッシュ。



名大病院内の飲食施設の紹介

ドトールコーヒーショップ

【お店からの一言】

2月24日(木)からドトールコーヒーショップで『ニューヨークチーズケーキ 〜ブルーベリーソース〜』(350円)を発売しました。

また同日より、コーヒーやカフェ・ラテなどのドリンクが選べる、14:00からのお得な『ケーキセット(500円)』を実施します。

このニューヨークチーズケーキは、ご注文いただいてから、ブルーベリーソースをかけて仕上げる、ドトールコーヒーショップとしては新しいスタイルで提供します。

ココアパウダーを混ぜ込んだ歯ざわりのいいクラスト生地を土台に使用しています。

チーズケーキフィリングは、甘さを引き立てて味にキレを出す、ほんのりとした塩味と、チーズの濃厚で豊かな風味、舌触り滑らかな口溶けのよさが特徴です。

また、低温でじっくりと湯煎焼きしていますので、しっとりとした口当たりです。

色鮮やかでフルーティーなブルーベリーソースは、フィリングの味を生かすサッパリとした甘さにしています。

一口目はソースのかかっていない部分で濃厚なチーズケーキ本来の味を、二口目はブルーベリーソースとあわせてスッキリとした後味を、と色々な味の変化をお楽しみいただけるケーキです。

この機会に午後のティータイムをお楽しみいただければ幸いです。

ご来店をスタッフ一同お待ちしております。

ドトールコーヒーショップ名古屋大学病院店

14:00より
選べるケーキ、選べるドリンク
Cake Set
¥500

しっとりスフレロール
モンブラン
NEW ニューヨークチーズケーキ
〜ブルーベリーソース〜
たっぷりたまごのチーズケーキ
ミルクレープ
かぼちゃのタルト

セットドリンクはこちらからお選びください。

ブレンドコーヒー (S) アメリカンコーヒー (S) エスプレッソ (S) カフェ・ラテ (S) ティール (S) アイスコーヒー (S) アイスカフェ・ラテ (S) アイスティール (S)

コンビニエンスストア「ローソン」

②名古屋大学病院内の『ローソン各店』について(ご案内)

昨年4月1日, 正面入口横の福利施設オアシスキューブ内に『ローソン名古屋大学病院店』と研究棟1階に『ローソンS名大病院研究棟店』, さらに今年2月1日, 病棟1階に『ローソンS名大病院病棟店』がそれぞれオープンいたしました。

『ローソン名古屋大学病院店(年中無休・8:00~21:00)』では, 病院にいても街中のお店と同じような感覚でご利用いただけるように, ファーストフードを展開したうえで全国的にも稀な介護ショップを併設し, 病院向けの衛生材料など入院患者様の必要な商品を品揃えしております。

『ローソンS名大病院研究棟店(平日のみ営業・8:00~19:00)』では, 職員様向け店舗として, お弁当やパンのほかドトールコーヒーを店内でお求めいただけるようになっております。

『ローソンS名大病院病棟店(年中無休・7:00~22:00)』では, お弁当やパンのほか, カロリーオフやカロリー控えめの食品・日用品・衛生材料・帽子など入院患者様向けの商品を中心に品揃えしております。同じローソンでも, 各店それぞれの用途にあわせて, 品揃えを行っていきます。より良い店舗作りを行ってきたいので, ご意見・ご提案をよろしくお願いいたします。



ローソン名古屋大学病院店



ローソン S 名大病院研究棟店



ローソン S 名大病院病棟店

名大病院内の飲食施設の紹介

レストラン「花の木」

③レストラン「花の木」のご案内

○営業時間

平 日 8時～20時(オーダーストップ19時30分)

土・日・祝日 8時～15時(オーダーストップ14時30分)

○休業日

1月1日～3日(年始3日間)

【主なメニュー】

◎平日10時までモーニングサービス実施(ドリンクにトースト, ゆで卵)

◎毎日10時まで和朝食及び洋朝食(各510円)を提供

◎日替定食(710円)は, 11時から毎日提供

◎サービスランチ(510円)は, 11時から平日のみ提供

◎季節メニュー, 和・洋・中華及び麺類をはじめサンドイッチなどの軽食並びにコーヒーなどのソフトドリンク等バラエティー豊かなメニューを取り揃えております。

【お店からの一言】

当店は病棟1階にあり, フルサービスで営業しておりますので, 患者様をはじめどなた様にも大変ご利用しやすいお店です。

便利でお得なお食事回数券(4,600円)やコーヒーチケットも販売しておりますので, ぜひお買い求め下さい。

皆様に喜ばれるメニューをご用意して, ご来店を心からお待ちしております。



レストラン「鶴友」

④ レストラン「鶴友」のご案内

○営業時間

平 日 11時～16時
(オーターストップ15時30分)

○休業日

土曜, 日曜, 祝日
及び年末年始(12月29日～1月3日)

【主なメニュー】

- ◎日替ランチ(700円)
- ◎あんかけスパゲティー(700円～)
- ◎鉄板イタリアンスパゲティー(650円)
- ◎各種定食(700円～)
- ◎食後のホットコーヒー及びアイスコーヒーは、150円で提供しております。



【お店から一言】

当店は、病棟東側に隣接した煉瓦造りの洒落た建物「鶴友会館」1階にある庭園付きレストランです。(病棟中央の南出口から徒歩1分程度)

店内は明るく、ゆったり寛いだ時間をお過ごしいただけます。

当店はレストラン「花の木」の姉妹店ですので、「花の木」のお食事回数券及びコーヒーチケットもお使いいただけます。

また、少人数の集りやパーティーなどにもご利用いただけますので、お気軽に店内スタッフ又は744-2892までお問合せ下さい。

季節の食材に彩られたメニューをご用意して、皆様のご来店を心からお待ちしております。



名大病院内の飲食施設の紹介

スカイレストラン&喫茶「ソレイユ」
／ランチ&喫茶「つる」

⑤スカイレストラン&喫茶「ソレイユ」(病棟14階)のご案内

○営業時間

平日 8:00～17:00(ラストオーダー 16:30)

土 11:00～17:00(ラストオーダー 16:30)

○休業日 日・祝日

【主なメニュー】

洋セット 500円(朝食メニュー),

日替わりランチ 840円,

ソレイユランチ 1,300円,

クリーミーカルボナーラ 800円,

ハンバーグ和風おろし 880円,

ワッフル各種 470円, ワッフルセット 730円



3月22日(火)よりグランドメニュー,
4月1日(金)よりランチメニューが
新しくなります!

【お店から一言】

大きな窓一面に広がる鶴舞公園や名古屋の街の景色を眺めながらのお食事は、病院内に在ることを忘れてしまいそう。特に、たっぷりの朝の陽射しを浴びながらの朝食は、1日のスタートをすがすがしく始めたい方におススメです。ランチは「日替わりランチ」と週替わりメニューの「ソレイユランチ」をご用意しています。名古屋観光ホテルグループの「ソレイユ」にぜひお立ち寄りください。

⑥ランチ&喫茶「つる」(病棟13階)のご案内

○営業時間 11:00～14:30(ラストオーダー14:00)

○休業日 土・日・祝日

【主なメニュー】

日替わり弁当 940円(コーヒー又は紅茶サービス),

ビーフカレー 730円, ソースかつ丼 790円,

ミックスサンドウィッチ 750円, ケーキ各種 360円,

ケーキセット 680円

※価格が一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。



【お店から一言】

ベージュとアイボリーを基調としたレトロモダンな空間は、どこかホッとする落ち着いた雰囲気。大きな窓から望む景色は、14階「ソレイユ」と負けず劣らず絶景! メニューは日替わり弁当やカレーライス, サンドウィッチなど軽食と各種デザートを取り揃えています。名古屋観光ホテルグループ 喫茶「つる」に是非お立ち寄りください。

立体駐車場等を建設します

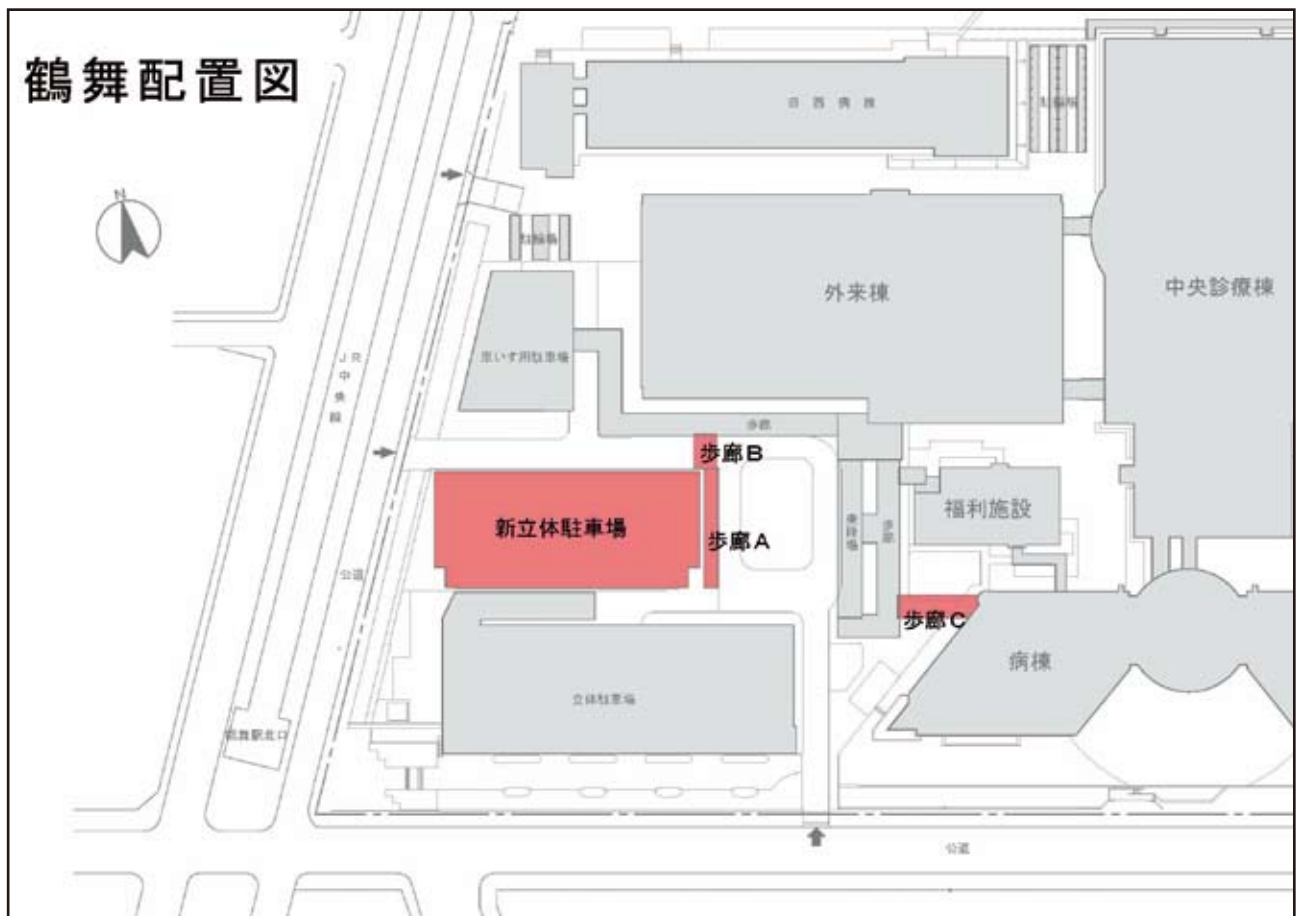
施設管理グループ 施設管理主幹 祖父江 信和

外来患者駐車場は、平日の朝9時前後には満車状態になってしまい、駐車場に通じる道路は入庫待ちの車で数珠つなぎとなり、病院利用者及び病院周辺の住民の皆様には大変ご迷惑をおかけしています。そこで、このような状態を一刻も早く解消するため、既設立体駐車場の北側にある平面駐車場の場所に、鉄骨造2層3段の自走式立体駐車場(収容台数約150台)を建設し、収容能力を拡充することとしました。

平成23年4月下旬に立体駐車場の建設工事を開始し、6月末には完成する予定です。また、この立体駐車場の建設に引き続き、7月から8月末にかけて

歩廊の建設工事を行います。歩廊が完成した暁には、この立体駐車場から外来棟玄関及び病棟西側入口まで屋根続きになりますので、雨にぬれずに歩いて行くことができますようになります。

立体駐車場建設工事はできるだけ短い期間で完成するように工夫して行いますが、この間収容台数が少なくなり、相当な混雑が予想されますので公共交通機関を利用いただきますようご協力をお願いします。また、立体駐車場及び歩廊の建設工事期間中は、自動車や歩行者の動線を変更することとなり、病院利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いします。



行事報告

○中日ドラゴンズの選手が訪問されました

経営企画課 経営企画掛

平成23年1月14日(金)午後3時から、中日ドラゴンズの小山捕手、藤井外野手、中田(亮)内野手によるトークショー&小児病棟慰問がありました。中日ドラゴンズ選手の名大病院訪問は、今年で3年連続3回目となり、入院患者さんや病棟の子供たちに毎回とても喜んでいただける本院の好例行事になっています。

まずは、中央診療棟3階講堂で主に入院患者さんを対象としたトークショーが行われました。トークショーは、山田病院長補佐の挨拶に始まり、3選手に昨シーズンを振り返っての感想をお話いただいたり、質問コーナーでは私生活のことや落合監督に関するちょっと踏み込んだ質問などが相次いで、会場はとても盛り上がりました。また、プレゼントコーナーではじゃんけんゲームを行い、3選手からサイン入り帽子やジャージなどたくさんのプレゼントをいただきました。入院患者さんにとって大変楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと思います。また、3選手から本院に対してマスク25,000枚をプレゼントしていただき、最後に本日の御礼として三浦副病院長から3選手に感謝状の贈呈が行われトークショーは終了しました。



続いて、小児病棟を訪問し、全病室の子供たちに3選手からサイン色紙と風船のプレゼントを手渡していただくとともに、握手や記念撮影もしていただきました。入院中の子供たちは、中日ドラゴンズの選手がやってくることを首を長くして待っていたようで、3選手が自分の部屋に入ってくると大興奮しながら本当にいい笑顔で喜んでいました。このときの病棟の光景を見ると、頑張って病気と闘っている子供たちにとって中日ドラゴンズの選手が来てくれたことは何よりの励みになると感じることができると思います。また、我が子の喜ぶ姿が嬉しくて何度も感謝の言葉をくださった親御さんの姿も印象的でした。

小児病棟訪問の後は、報道陣による囲み取材がありましたが、3選手は小児病棟で時間を気にすることなく子供たち一人一人に声を掛けてくださったおかげで、帰られたのは予定時刻を1時間ほど超過した午後6時過ぎでした。選手たちの熱意には本当に頭が下がる思いです。

最後に、今回の企画も、多くの入院患者さん、小児病棟の子供たちに喜んでいただけるものとなりました。改めまして、中日球団、この企画を主催していただきましたイベント会社等関係者の方々、そして、ご多忙の中、本院への訪問を快諾していただいた小山選手、藤井選手、中田(亮)選手に本誌を借りて厚く御礼を申し上げます。



小山選手（左上）、中田選手（左下）、藤井選手（右）

行事報告

○ボランティアコンサート「弾き初め」弾き語りコンサートを開催しました 医療サービス課 患者サービス掛

1月13日にリハビリ広場で、ボランティアさんによる「弾き初め」弾き語りコンサート」と題してギターと語りによるコンサートを開催しました。

開催していただいた水上陽平さんは、当院に入院していた友人の見舞に来たときに院内コンサートを開催していることをお知りになり、申込みされました。

演奏中は大層緊張されていたようですが、聴いている側は素敵なギター演奏を楽しんでいました。

水上さんは、東海地区の病院や老人施設等を訪問され、元気な演奏会を催されています。

今回当院での演奏も患者さんに元気になって貰おうと、若さあふれる弾き語り演奏を開催していただきました。



○ボランティアコンサート「雅楽平和 龍笛コンサート」を開催しました 医療サービス課 患者サービス掛
2月1日にボランティアとして今枝正晴さんによる龍笛(横笛)と笙による「雅楽平和 龍笛コンサート」を開催しました。

今回で3回目となり, 70人程の参加者が来場されました。

曲目解説や日本古来からの楽器について楽しくお話しを聞きながら進められました。

楽器の音色は, 日本古来の伝統音楽を華やいだ雰囲気と, 優雅に歴史を感じさせながら, 和の響きに囲まれた一時でした。



行事報告

○消防訓練を実施しました

施設管理グループ施設管理掛

2月17日(木)消防訓練を実施しました。この訓練は、病院で火災が発生したことを想定して、自衛消防隊の編成、消防への通報、初期消火、患者の避難・誘導訓練を行うことで、自主防火体制の強化と防火意識の高揚を図ることを目的としています。

今回の訓練は、3E病棟で火災発生 of 想定で始まりました。火災発生確認後直ちに病院長を隊長とする自衛消防隊が病棟南側に設営されました。火災発生現場では消火器で消火を行いましたが、鎮火しないため、屋内消火栓による消火に切り替えるとともに、3階全体に避難命令が出され、避難経路使用した避難が始まりました。しかし、その後も火の勢いは衰えず、煙が上層階に広がり、延焼の恐れも発生したことから、病棟全体に避難命令が出され、3階と同様避難経路使用した避難が始まりました。自衛消防隊本部へは各部署からの避難状況が順次報告されるとともに、負傷者は救護所へ搬送されました。また、歩行できない人をエアストレッチャーで搬送する訓練や避難梯子を使った訓練も併せて実施しました。

全部署の避難と負傷者の対応が完了すると、自衛消防隊長から昭和消防署にこれが報告され、訓練は終了しました。

当日参加いただいた皆様には、多忙なところ協力をいただきありがとうございました。

最後に施設管理グループから防火に関するお願いです。消防署の情報によれば、病院での火災の原因のトップは放火だそうです。放火を防ぐため、人目の届きにくい所にゴミを放置しないなど日頃から注意いただきたいと思います。また、万一火災が発生した場合に被害を拡散させないためにも防火戸近辺、避難経路や非常用エレベーターホールに物を置いたりしないようお願いします。



○「名古屋大学博物館ボタニカルアート作品展」を

名大病院中央診療棟2階リハビリ広場において開催しました

総務課 総務企画室

平成23年2月8日(火)から3月4日(金)まで、中央診療棟2階リハビリ広場においてボタニカルアート作品展を開催しました。

ボタニカルアート(「Botanical=植物の、植物学の」、「Art=芸術、美術」が結びついた言葉)とは、植物をよく観察し、形や色や特色を写實的に克明に、かつ芸術的な美しさをもって描いた絵のことをいい、美術品としてだけではなく、写真の発達した現在でも図鑑などにも用いられる博物画のひとつです。

本作品展は、平成23年1月11日(火)から2月5日(土)までの間、名古屋大学博物館で展示されていた作品の一部を巡回展示したもので、名古屋大学博物館以外の会場で開催するのは今回が初めてになります。

展示作品は、名古屋大学博物館友の会ボタニカルアートサークルメンバーによる26点で、会場は、細密に描かれた花や実を付けた植物であふれ、患者さんや患者さんの付き添いの方々が見入るだけでなく、通りかかった職員も思わず足を止めるほどでした。



サンズンアヤメ 《アヤメ科》
名古屋大学博物館友の会・ボタニカルアートサークル
講師 東海林富子

(次ページへつづく)

行事報告

○名古屋大学博物館ボタニカルアート作品展

サークルの皆さんの作品をほんの一部ですが紹介いたします。



アジサイ《ユキノシタ科》 定直 佳代子



パンジー 'ムーランルージュ' 《スミレ科》 若原 静映



バラ 'テディベア' 《バラ科》 蔵富 緑



オンシジウム《ラン科》 福田 妙子



レモン《ミカン科》 久米 敦子



ビオラ《スミレ科》 佐藤 明子

平成23年2月1日



ナディック通信no.22



今回のナディック通信は、広場ナディックで行われているがん相談の紹介と22年度4月～12月のナディック利用統計のご報告をさせていただきます。また、患者サービス掛の土本掛長の寄稿を掲載いたしました。23年度もみなさんに幅広く利用していただけるようなナディックを目指したいと思います！

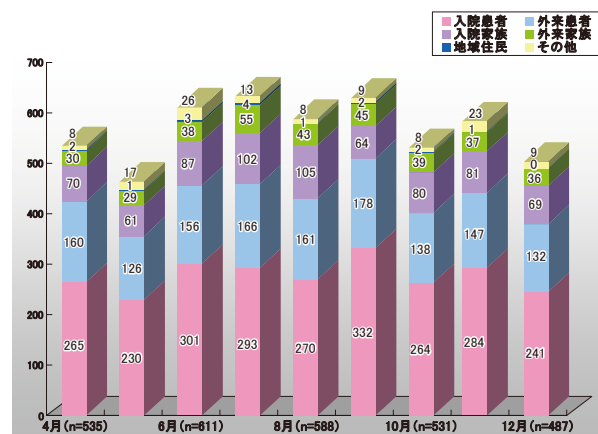
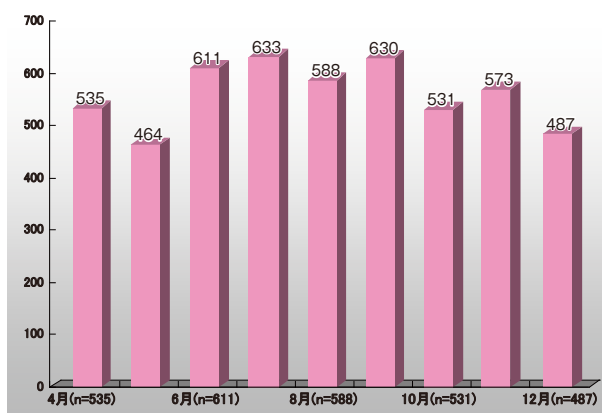
【がん相談のご紹介】

地域医療センターにてがん相談を行っている黒柳相談員が毎週火曜日・木曜日の午前中に広場ナディックに訪問して相談を行っております。「相談室に行くほどではないけど、聞いてほしいことがある。」「ナディックで病気のことを調べるお手伝いをしてほしい！」などでも結構です。

ナディックに立ち寄られた際はぜひ、お声かけ下さい。なお、火曜日・木曜日の午前中以外の平日は地域医療センターにあります。



【平成22年度4月～12月利用統計】





患者サービス掛 土本 掛長

広場ナテックは、平成18年5月8日の連休明けから開館しました。患者さん対応の運営はボランティアさんに担当していただいております。開館当初のボランティア数は8名、半年後には十数名加入していただき、

20名余で運営していました。一人当月10回を越す活動を行うこともあり、苦勞をお掛けしてきましたが、現在は三十数名まで加入していただき、活動は大変安定してきました。

今年は開館して5年を経過することから、5周年記念を祝う企画を考えているところです。また、皆さまへご投稿をお願いに参ることがあるかもしれません。そのときは快く引き受けてくださるようお願いいたします。

広場ナテックでの活動は今思えば大変多彩な内容に充実してきました。最初は、専門の医学書を集めることになり、運営委員会の委員の先生の医局から寄附をいただいたり、計画的に購入して蔵書を増加させていきました。また、4台のパソコンを設置して、疾病に関する医学・薬学等のサイトを捜しやすくしたり、医療用のかつら、衣類の展示の充実、患者のための音楽療法を二診療科で実施してきました。疾病に係るパンフレットも提供を受けて、多くの患者さんに見ていただいております。

学習会の開催も活発になり、看護部や保健学科が中心となり、定期的に開催されており、益々充実しております。

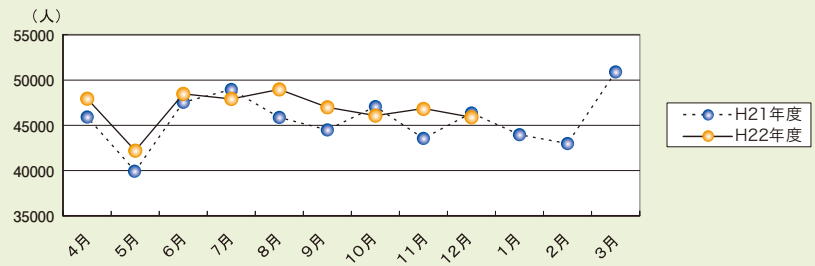
患者さんの憩いの場として毎日娯楽映画を上映しており、楽しみに来館される患者さんも見えます。また、手作り教室もボランティアさんが月一回開催されており、その季節にちなんだ作品の製作指導をしていただき、楽しんで参加されています。更に、絵手紙が自由に作成出来るように材料を用意して常設しています。

広場ナテックの活動の紹介のようになりましたが、今更その活動内容を整理しますと、このように、自分で疾病を調べたり、学習会の開催、がん相談の開催、ビデオ上映、工作や絵手紙を楽しんだりと多彩になってきており、益々発展していくものと信じております。

名大病院の医事統計

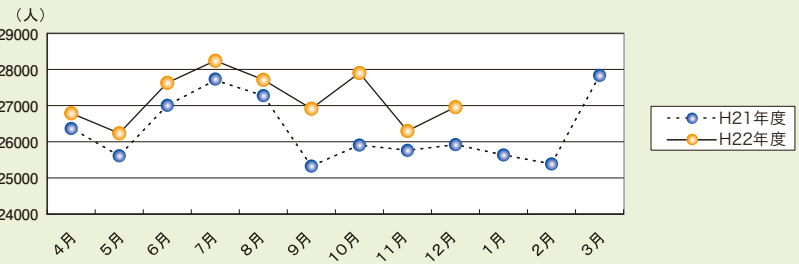
経営企画課

1. 外来患者数の推移



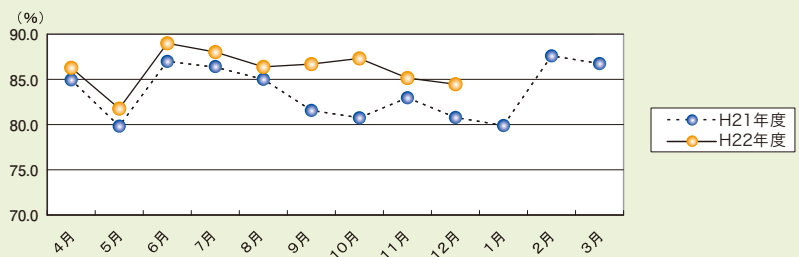
2. 入院患者数の推移

(註) 入院患者数は、在院患者延日数 + 退院患者延日数です。



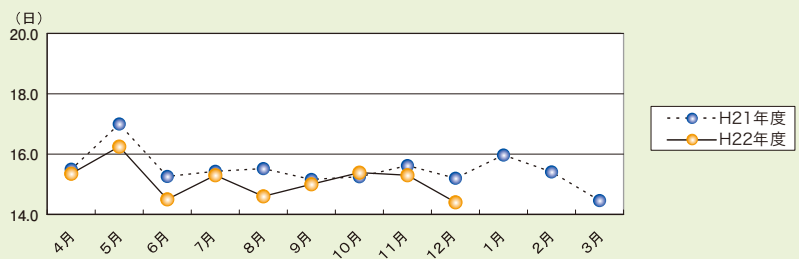
3. 病床稼働率の推移

(註) 病床稼働率の計算は、実働病床数 1015 床に対する割合です。

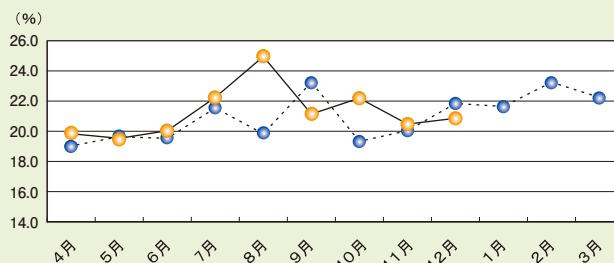


4. 平均在院日数の推移

(註) NICU, 精神病棟等を除いた一般病棟の健康保険上の平均在院日数です。

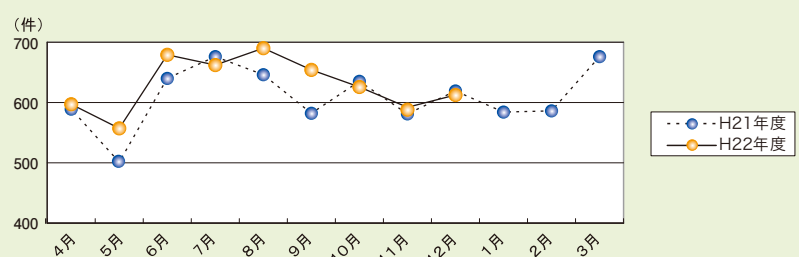


5. クリニカルパス適用率の推移



6. 手術件数の推移

(註) 中央手術室での手術件数のみです。



編集後記

出会いと旅立ちの希望にあふれ、心弾み、胸躍るはずのこの季節。今年は、たちこめる重苦しい空気をなかなか払いのけることができません。

3月11日、14時46分。東日本を襲った未曾有の大震災。自然の圧倒的な脅威に言葉を失い、失われたものの大きさに心締め付けられ、想定外とされる事象の連続に怒りと不安がおさまらぬ毎日。

全国から様々な援助が開始され、当院の医療支援チームも現地に入らせていただいておりますが、その甚大な被害状況を目の当たりにし、被災された方々の悲しみと苦しみを思うとき、やるせない無力感で胸が詰まります。しかしながらこの間、実際に被災された方々の笑顔とその言葉に、私達はどれほど救われ、勇気づけられたことでしょうか。私達は支援をさせていただきながら、被災された方々から、逆に励まされ、元気をいただいているのかもしれません。

医療に携わる者として、日本国民として、いったい何ができるのか。どうすればよいのか。今、そのことが、一人一人に問われているような気がします。生かされていることに感謝し、人と人との結びつきを大切に感じ、目の前のことを粛々とこなしながら、一日一日を精いっぱい生きていく。今年こそ、そんな毎日を送ることができるよう、思いを新たにす今日この頃です。

(総合診療科 鈴木富雄)

お知らせ 『かわらばん』は、名古屋大学医学部附属病院ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

(トップページ⇒最新情報⇒病院かわらばん)

かわらばん編集委員会

顧問	松尾病院長	青山事務部長
アドバイザー	大磯ユタカ	
委員長	中島 務	
委員	鈴木 富雄	石川 和宏
	青山 裕一	水谷真規子
	池戸 初枝	稲垣 祐子
	川村 篤	伊奈 経雄
	山口 誠	大久保 淳
	前田 敦子	土屋 有司
	隅坂 弘幸	古川 一広

No.80

医学部・医学系研究科総務課

TEL 741-2111

(内線2228)

かわらばん編集委員会

発行日 2011年4月1日